

『無規制が生んだ太平洋クロマグロの危機』

一スーパー・生協・デパート・回転ずし 20社の販売状況の調査結果と分析

太平洋クロマグロが2014年にIUCNのレッドリストに絶滅危惧種として掲載され、今年の11月で2年だ。このまま何も具体的な対策を取らなければ、近い将来における絶滅の危険性がより高くなる。ところが、どうやら日本では絶滅危惧種に指定されてもなお、どうすれば食べ続けられるかが優先され、保護の対象としては認識されていないようだ。

初夏のこの時期、太平洋クロマグロは産卵期を迎えている。産卵のために日本海に戻ってきた太平洋クロマグロは巻き網漁によって一網打尽にされ、スーパーなどで「国産天然生本マグロ」などの謳い文句で売られている。デパートの鮮魚売り場では、産卵期の太平洋クロマグロを豪快に解体するショーが人気を博している。かつては、高級食材だった太平洋クロマグロは、今や回転ずしチェーンでも出回るようになった。大量消費・薄利多売型の非持続可能な日本の市場に一度取り込まれてしまうと、絶滅危惧種になっても、容易には抜けさせてもらえない。

2016年4月、ISC（国際科学委員会）が最新の太平洋クロマグロの資源評価を発表した。太平洋クロマグロは初期資源量のもはや2.6%しか残っていないことが分かった。疑いようもなく、待ったなしの危機的状況だ。そこで、国際環境NGOグリーンピース・ジャパンは、2016年6月3日から6月17日にかけて、スーパーマーケット・生協5社、デパート5社、回転ずしチェーン10社に対し、産卵期の太平洋クロマグロの取り扱い状況に関するアンケート調査を実施した。

産卵期の太平洋クロマグロの取り扱いに関する調査概要

調査対象：大手スーパーマーケット4社と日本生活協同組合連合会（以下、日本生協連）、大手デパート5社、そして回転ずし10社の合計20社だ。スーパーマーケットでは、過去5年にわたる魚介類の調達方針のアンケート調査「スーパーマーケット・ランキング」でおなじみのイオン、イトーヨーカドー、西友、ユニーの4社に加え、日本生協連¹に調査を実施した。今回、新たな取り組みとして、スーパーマーケットとデパートに加え、マグロや寿司をより身近なものにした大手回転ずしチェーンにも調査を実施した。売上、知名度、そして展開する地域を総合的に判断し、大手10社を選んだ。

調査内容：主要の質問となる9問とそれに付随する質問から構成され、主要9問は全て「はい・いいえ」の二択で回答する形式だ。「はい・いいえ」のいずれの選択肢も選んでいない場合、また、それ以外の回答をした場合には、無回答とした。

¹ 日本生協連の回答の適用範囲は、全国各地にある生協のうち、日本生協連が会員の各生協に供給しているCO・OP商品に限る。

産卵期の太平洋クロマグロの取り扱いに関するアンケート調査: 対象企業と回答状況

企業名 <small>(順不同)</small>	ブランド	回答状況
イオンリテール(株)	イオン	回答
(株)イトーヨーカ堂	イトーヨーカドー	回答
(合)西友	西友	回答
ユニー(株)	アピタ・ピアゴ	回答
日本生活協同組合連合会	CO・OP *日本生協連が会員の各生協に供給している CO・OP商品に限る	回答
(株)そごう・西武	そごう・西武	回答
(株)高島屋	高島屋	回答
(株)大丸松坂屋百貨店	大丸・松坂屋	回答
(株)阪急阪神百貨店	阪急・阪神	回答
(株)三越伊勢丹	三越・伊勢丹	回答
(株)ゼンショーホールディングス	はま寿司	回答
(株)あきんどスシロー	スシロー	回答
元気寿司(株)	元気寿司	回答
(株)アールディーシー	がっぺん寿司	回答
(株)ジー・テイスト	平禄寿司	回答
(株)喜代村	すしざんまい	回答
(株)くらコーポレーション	くら寿司	回答拒否
カッパ・クリエイト(株)	かっぱ寿司	回答拒否
(株)餃子丸	すし餃子丸	回答拒否
(株)フーズネット	にぎり長次郎	回答拒否

調査結果と考察 (詳細は、文末に一覧表を掲載)

[Q1 太平洋クロマグロを販売しているか]

回答があった 16 社のうち、実に 11 社が太平洋クロマグロの取り扱いをしており、取り扱いない企業はわずか 4 社であった。

[Q2 産卵期の太平洋クロマグロを販売しているか]

取り扱いのある 11 社のうち、産卵期の太平洋クロマグロを扱っていると明確に回答したのは、スーパー 4 社 (イオン、イトーヨーカドー、西友、ユニー) とデパート 4 社 (そごう・西武、三越・伊勢丹、高島屋、大丸・松坂屋) だった。阪急阪神および平禄寿司は無回答であったが、補足説明から取り扱いがあることがわかる。回答のなかった回転ずしチェーン 4 社 (無添くら寿司・かっぱ寿司・すし銚子丸・にぎり長次郎) での取り扱い状況は不明だが、産卵期の太平洋クロマグロを販売しているのは、主にスーパーとデパートであったことは興味深い。

[Q4 産卵期の太平洋クロマグロを販売し続けても、太平洋クロマグロの資源量・個体数をより減少させることに影響しないと思うか]

今回のアンケート結果のハイライトは、産卵期の太平洋クロマグロを販売し続けることを、ほとんど全ての企業が「問題である」と捉えている点だ。産卵期の太平洋クロマグロを販売し続けても、太平洋クロマグロの資源量・個体数をより減少させることに影響しないと断言

した企業はいない。産卵期の太平洋クロマグロの取り扱いがあるイオン、西友、そして平塚寿司は影響の有無について明言を避け、無回答であった。

[Q5 産卵期の太平洋クロマグロを販売し続けても、太平洋クロマグロが絶滅することはないと思うか]

「絶滅することはない」と思う企業は皆無であった。前問と同様に、イオン、西友、平塚寿司を含む 5 社が無回答であったことから、企業によって程度の差こそあるが、産卵期の太平洋クロマグロを取り扱うことが、太平洋クロマグロをさらなる窮地に追いやる可能性があるため、全ての企業が懸念していることが伺える。

[Q6 太平洋クロマグロの現状を懸念し、産卵期の太平洋クロマグロの販売を中止するか]

では、産卵期の取り扱いを問題視しながらも販売し続ける理由は何なのだろうか？ 太平洋クロマグロの現状を懸念し、産卵期の太平洋クロマグロの販売を中止するかどうか問うたところ、産卵期の取り扱いがある企業 10 社のうち、中止する企業は 1 社もなかった。

理由として消費者の需要があることを挙げたのが、イトーヨーカドー、そごう・西武、高島屋、大丸松坂屋だ。産卵期の取り扱いを問題視しながらも、消費者が欲しがるから販売するとの理由づけは責任転嫁でしかない。その他の理由として「小売業には市場流通するモノを調達しお客様へ販売する役割がある（高島屋）」、「卸売市場より仕入れており、国（水産庁等）による資源管理のもと漁獲された太平洋クロマグロが流通していると認識している（阪急阪神）」、「国の基準や監督省庁の通知指導に則り、市場流通される商品のみでの取扱いを行っている（三越伊勢丹）」、「法令等での流通規制のない商品であるため（大丸松坂屋）」などがあった。

国の管理を遵守していること、また消費者の需要を満たすことを理由に、産卵期の太平洋クロマグロを扱うことの正当性を主張しているようだ。たしかに、産卵期の太平洋クロマグロに関する漁獲および流通における保護措置はないので、「違法」ではない。だがしかし、国が「適切」に資源管理をしてきたのなら、そもそも 2.6%までに減る事態に陥ることはなかっただろう。前出の回答から、ほとんどの企業が、産卵期の太平洋クロマグロを販売し続けることで、さらなる悪影響を与えるだろうと感じているが、誰も法的に間違ったことをしていないため、販売中止に踏み切れないのだ。やはりルールが必要だ。

ルールがなければ、誰もが「おかしい」と思っているとしても、漁業は営まれるし、漁獲があれば市場に卸される。市場に流通し店に並べば、消費者は当然のごとく購入する。市場に変わらず出回っている限り、消費者は「2.6%」を実感できるはずもないので、企業が販売を中止しない理由の一つである需要は一向に減らない。

[Q7 太平洋クロマグロの現状を懸念し、産卵期の太平洋クロマグロの販売量を削減するか]

産卵期の太平洋クロマグロの販売中止はできないとするも、各社ともに事態の深刻さを捉えているのか、販売量の削減を試みている企業も少なくない。イオン、イトーヨーカドー、ユニー、そごう・西武、大丸松坂屋の 5 社だ。具体的な時期や数値を示したスーパー 3 社に対し、デパート 2 社は明言を避けた。また、高島屋、阪急阪神、三越伊勢丹は削減すらしないと回答した。デパートは、鮮魚売り場で実際に太平洋クロマグロを取り扱う鮮魚会社と協力する必要があるため、苦戦している様子が見受けられる。

産卵期の太平洋クロマグロの販売量を削減する代替案として、完全養殖太平洋クロマグロを代替案として挙げる企業が多くいた。養殖（蓄養）や完全養殖にシフトすることは、パーフェクトな解決策ではない。養殖には、餌として膨大な量の他の魚が必要となり、結局は天然資源・海洋生態系に多大な負担を強いていることに変わりはない。日本近海で獲れる魚も含め、水産資源はいま危険な状態にある。いかに早く、より多く個体数を増やすかに最大の努力を注ぐべきだ。自分たちの引き起こした惨事に目をつぶるべきではない。

【結論】

実際に産卵期の太平洋クロマグロの販売を続けている小売業は、その販売が資源量に対して影響があると自覚しているのであれば、国のルールをまたずとも自主的に販売の削減・中止をし、よりサステナブルな調達に変えるべきである。

グリーンピース・ジャパンの提言ー太平洋クロマグロの個体数回復に向けて

太平洋クロマグロの資源量は 2.6%、つまり、はじめに 100 匹いたとすれば、もはや 3 匹もないという状態だ。疑いようもなく、太平洋クロマグロは絶滅の危機に瀕している。責任は私たち日本にある。太平洋クロマグロのおよそ 8 割は日本で消費されるからだ。どこの国で獲られたかなど、さしたる問題ではない。さらに、太平洋クロマグロの産卵場所は日本海と南西諸島の二カ所で、いずれも日本の海だ。生物が種を存続させるために、繁殖活動がいかに重要であるかについては、説明は要らないだろう。

ところが、日本には産卵期の太平洋クロマグロを保護するルールはない。残り 2.6%まで減ってしまった現在もだ。初夏の今の時期、巻き網漁が盛んな日本海では、産卵に帰ってきた親魚が一網打尽にされている。何パーセントまでに減れば、いよいよ危ないと保護措置に乗り出すのだろうか？ 太平洋クロマグロを絶滅種にするも、絶滅の危機から救い、たくさんのマグロが泳ぐ豊かな海にするも、私たち日本人の手にかかっている。

手遅れになる前に、太平洋クロマグロを絶滅の危機から救うには、地域漁業管理機関である中西部太平洋まぐろ類委員会（WCPFC）での国際的な資源管理措置の強化に加え、世界最大の消費国及び唯一の産卵場所を有する日本が、国内における保護管理措置を導入する必要がある。

グリーンピース・ジャパンは、日本政府（水産庁）に対し、(1)産卵期の禁漁、(2)巻き網漁の規制導入を要請する。産卵期の太平洋クロマグロの現状を広く消費者に理解してもらい、共に政府に太平洋クロマグロの保護を求めるキャンペーン『マグロがいる海がいい』を開始し、オンラインで署名を集める²。今年 8 月 29 日から WCPFC の北小委員会が福岡で開催され、太平洋クロマグロの管理について関係各国が協議する。資源量が 2.6%に下方修正されたことで、より日本に対する世界の目が厳しくなっている。今こそ、日本のリーダーシップが求められている。

² 『マグロがいる海がいい』キャンペーンページ
<http://act-greenpeace.jp/ocean/tuna2016/>

アンケート調査結果 一覧表

Q1. 太平洋クロマグロを販売している				
	はい	いいえ	無回答	備考
イオン	<input type="radio"/>			
イトーヨーカドー	<input type="radio"/>			
西友	<input type="radio"/>			
ユニー	<input type="radio"/>			
日本生協連		<input type="radio"/>		
そごう・西武	<input type="radio"/>			
三越伊勢丹	<input type="radio"/>			
高島屋	<input type="radio"/>			
阪急阪神	<input type="radio"/>			
大丸松坂屋	<input type="radio"/>			
はま寿司		<input type="radio"/>		
スシロー		<input type="radio"/>		
元気寿司		<input type="radio"/>		
がっせん寿司	<input type="radio"/>			
平禄寿司			<input type="radio"/>	養殖南まぐろを主体にしています
すしざんまい	<input type="radio"/>			

Q2. 産卵期の太平洋クロマグロを販売している				
	はい	いいえ	無回答	備考
イオン	<input type="radio"/>			
イトーヨーカドー	<input type="radio"/>			
西友	<input type="radio"/>			
ユニー	<input type="radio"/>			
日本生協連		<input type="radio"/>		
そごう・西武	<input type="radio"/>			
三越伊勢丹	<input type="radio"/>			
高島屋	<input type="radio"/>			
阪急阪神			<input type="radio"/>	私どもは卸売市場より仕入れており、国(水産庁等)による資源管理のもと漁獲された太平洋クロマグロが流通していると認識している。
大丸松坂屋	<input type="radio"/>			
はま寿司		<input type="radio"/>		
スシロー		<input type="radio"/>		
元気寿司		<input type="radio"/>		
がっせん寿司		<input type="radio"/>		
平禄寿司			<input type="radio"/>	積極的には販売しません
すしざんまい		<input type="radio"/>		

Q3. 太平洋クロマグロが絶滅危惧種であることを知っていた

	はい	いいえ	無回答	備考
イオン	<input type="radio"/>			
イトーヨーカドー	<input type="radio"/>			
西友	<input type="radio"/>			
ユニー	<input type="radio"/>			
日本生協連	<input type="radio"/>			
そごう・西武	<input type="radio"/>			
三越伊勢丹	<input type="radio"/>			
高島屋	<input type="radio"/>			
阪急阪神	<input type="radio"/>			
大丸松坂屋	<input type="radio"/>			
はま寿司	<input type="radio"/>			
スシロー	<input type="radio"/>			
元気寿司	<input type="radio"/>			
がっせん寿司	<input type="radio"/>			
平禄寿司	<input type="radio"/>			
すしざんまい	<input type="radio"/>			

Q4. 産卵期の太平洋クロマグロを販売し続けても、太平洋クロマグロの資源量・個体数をより減少させることに影響しないと思う

	はい	いいえ	無回答	備考
イオン			<input type="radio"/>	わかりません
イトーヨーカドー		<input type="radio"/>		
西友			<input type="radio"/>	
ユニー		<input type="radio"/>		
日本生協連		<input type="radio"/>		
そごう・西武		<input type="radio"/>		
三越伊勢丹		<input type="radio"/>		
高島屋		<input type="radio"/>		
阪急阪神		<input type="radio"/>		
大丸松坂屋		<input type="radio"/>		
はま寿司			<input type="radio"/>	
スシロー		<input type="radio"/>		
元気寿司			<input type="radio"/>	*太平洋クロマグロの取り扱いなし
がっせん寿司		<input type="radio"/>		
平禄寿司			<input type="radio"/>	よくわかりません
すしざんまい		<input type="radio"/>		

Q5. 産卵期の太平洋クロマグロを販売し続けても、太平洋クロマグロが絶滅することはないと思う

	はい	いいえ	無回答	備考
イオン			<input type="radio"/>	わかりません
イトーヨーカドー		<input type="radio"/>		
西友			<input type="radio"/>	
ユニー		<input type="radio"/>		
日本生協連		<input type="radio"/>		
そごう・西武		<input type="radio"/>		
三越伊勢丹		<input type="radio"/>		
高島屋		<input type="radio"/>		
阪急阪神		<input type="radio"/>		
大丸松坂屋		<input type="radio"/>		
はま寿司			<input type="radio"/>	*太平洋クロマグロの取り扱いなし
スシロー		<input type="radio"/>		
元気寿司			<input type="radio"/>	*太平洋クロマグロの取り扱いなし
がっくん寿司		<input type="radio"/>		
平禄寿司			<input type="radio"/>	よく分かりません
すしざんまい		<input type="radio"/>		

Q6. 太平洋クロマグロの現状を懸念し、産卵期の太平洋クロマグロの販売を中止する

	はい	いいえ	無回答	備考
イオン			<input type="radio"/>	わかりません
イトーヨーカドー		<input type="radio"/>		
西友			<input type="radio"/>	
ユニー		<input type="radio"/>		
日本生協連			<input type="radio"/>	現在、太平洋クロマグロの使用実績はなく、今後の発売計画もありませんので、以下の質問については該当しないため、回答なしとさせていただきます。
そごう・西武		<input type="radio"/>		
三越伊勢丹		<input type="radio"/>		
高島屋		<input type="radio"/>		
阪急阪神		<input type="radio"/>		
大丸松坂屋		<input type="radio"/>		
はま寿司			<input type="radio"/>	*太平洋クロマグロの取り扱いなし
スシロー	<input type="radio"/>			*太平洋クロマグロの取り扱いなし
元気寿司			<input type="radio"/>	*太平洋クロマグロの取り扱いなし
がっくん寿司	<input type="radio"/>			既にその方針です *産卵期の太平洋クロマグロの取り扱いなし
平禄寿司			<input type="radio"/>	
すしざんまい			<input type="radio"/>	販売していない

Q6-1. Q6で「いいえ」の場合、販売を中止しない理由

	産卵期の太平洋クロマグロは安く調達できるから	太平洋クロマグロは高く売れるから	消費者の需要があるから	その他
イトーヨーカドー			○	自社基準に沿って削減継続・販売継続
ユニー				水揚げされてしまった本鮪を食品ロスを考え有効消費するため
そごう・西武			○	
三越伊勢丹				国の基準や監督省庁の通知指導に則り、市場流通される商品のみの取扱いを行っています。
高島屋			○	小売業には市場流通するモノを調達しお客様へ販売する役割がある
阪急阪神				私どもは卸売市場より仕入れており、国(水産庁等)による資源管理のもと漁獲された太平洋クロマグロが流通していると認識している。
大丸松坂屋			○	法令等での流通規制のない商品であるため

Q7. 太平洋クロマグロの現状を懸念し、産卵期の太平洋クロマグロの販売量を削減する

	はい	いいえ	無回答	備考
イオン	○			
イトーヨーカドー	○			
西友			○	
ユニー	○			
日本生協連			○	現在、太平洋クロマグロの使用実績はなく、今後の発売計画もありませんので、以下の質問については該当しないため、回答なしとさせていただきます。
そごう・西武	○			
三越伊勢丹		○		
高島屋		○		
阪急阪神		○		
大丸松坂屋	○			
はま寿司			○	*太平洋クロマグロの取り扱いなし
スシロー			○	*太平洋クロマグロの取り扱いなし
元気寿司			○	*太平洋クロマグロの取り扱いなし
がっぺん寿司			○	*産卵期の太平洋クロマグロの取り扱いなし
平禄寿司			○	
すしざんまい			○	*産卵期の太平洋クロマグロの取り扱いなし

Q7-1. Q7で「はい」の場合

	いつまでに削減しますか？	どのくらい削減しますか？
イオン	本年より	①イオンリテールは5月～7月の30kg未満の本鮓については販売を自粛します。 ②境港は全てのマグロの内臓を処理する形で流通になっているため、明らかに抱卵しているものの取り扱いを抑制します。 ③従来通りの販売量上限値も設定し販売をしています。 以上の施策により、イオンリテールでは大幅に削減する予定です。
イトーヨーカドー	継続して削減取組み中	2020年度までに2015年度比で2割削減
ユニー	毎年	2割ほど
そごう・西武	現在も削減中	可能な限り削減したいと考えています
大丸松坂屋	具体的時期は設定しておりません	具体的数値は設定しておりません

Q8. たとえ天然の太平洋クロマグロが絶滅しても、他のマグロや養殖の太平洋クロマグロを販売すればいいと思う

	はい	いいえ	無回答	備考
イオン		<input type="radio"/>		
イトーヨーカドー		<input type="radio"/>		
西友		<input type="radio"/>		
ユニー		<input type="radio"/>		
日本生協連			<input type="radio"/>	現在、太平洋クロマグロの使用実績はなく、今後の発売計画もありませんので、以下の質問については該当しないため、回答なしとさせていただきます。
そごう・西武		<input type="radio"/>		
三越伊勢丹		<input type="radio"/>		
高島屋			<input type="radio"/>	決して天然の太平洋クロマグロが絶滅して良いとは思っておりませんので、回答しかねている
阪急阪神		<input type="radio"/>		
大丸松坂屋		<input type="radio"/>		
はま寿司		<input type="radio"/>		
スシロー		<input type="radio"/>		
元気寿司			<input type="radio"/>	
がっせん寿司			<input type="radio"/>	
平禄寿司			<input type="radio"/>	業界に同調すると思います
すしざんまい			<input type="radio"/>	

Q9. 太平洋クロマグロの現状を懸念し、上記以外に取り組みをしている

	はい	いいえ	無回答	備考
イオン	○			
イトーヨーカドー	○			
西友	○			
ユニー	○			
日本生協連			○	現在、太平洋クロマグロの使用実績はなく、今後の発売計画もありませんので、以下の質問については該当しないため、回答なしとさせていただきます。
そごう・西武	○			
三越伊勢丹	○			
高島屋		○		
阪急阪神		○		
大丸松坂屋	○			
はま寿司			○	*太平洋クロマグロの取り扱いなし
スシロー		○		
元気寿司			○	*太平洋クロマグロの取り扱いなし
がっぺん寿司			○	
平禄寿司			○	養殖まぐろを主体にし、天然まぐろは積極的には販売しません
すしざんまい			○	

Q9-1. Q9で「はい」の場合、具体的な取り組み内容

イオン	<p>①イオンは、クロマグロの資源問題の解決策は「完全養殖」へのシフトと考えています。現在プライベートブランド化し天然よりシフトすべく販売に注力しております。ただし、飼料問題、環境問題でまだサステナブルであるとは言えない状態であることを認識しておりASC認証取得をサステナブルの裏付けとすべく、改善を計っています。</p> <p>②境港のメジマグロ(30kg未満)の取扱いを中止したことで、水産庁の資源回復計画の97%を占める30kg未満の漁獲を制限することで回復策に寄与します。</p> <p>③抱卵マグロは、境港の100%開腹する流通を使って、取扱いの抑制をします。その確認を、自社で実施いたします。(イオンリテールには、鳥取(境港中心)の仕入れ担当者が駐在しています)</p>
イトーヨーカドー	生産者指定の養殖本鮪の年間販売・完全養殖本鮪への移行検討
西友	政府や各漁業管理機関からの情報を注視し、取扱を慎重に判断しています。
ユニー	産卵期の太平洋クロマグロを積極的には販売しない、本鮪の完全養殖販売への取り組み
そごう・西武	代替商品の販売強化/モチピンチョウ・近大マグロ・アラスカシーフード(※)等 持続可能な商品の販売強化 ※ アラスカシーフード = 持続可能な漁法で獲った天然素材
三越伊勢丹	完全養殖のクロマグロの取扱いを実施しております。また、国の基準・監督省庁の通知指導に則りながら、その他代替資源等の取扱いにも取り組む必要があると考えております。マグロを含む鮮魚全体の調達について、今後は食を通じた環境問題への配慮の観点より、持続可能性のある漁業で獲られた魚介類の取扱いや、独自基準の策定等を検討していくべきと考えております。
大丸松坂屋	完全養殖クロマグロを従来以上に積極的に販売している